【小学校　詩　優秀賞】

こぶし

那覇市立高良小学校　六年
上原　晴美

今年も　月桃の花が咲いている
かんざしのような白い花を
静かにゆらしながら
私達に語りかけてくる
「あの時の悲しみを　忘れないで…」

六十五年前ー
平和を愛する　沖縄が
戦場となった……

私と同じ年の子もいたでしょう
もっともっと小さな子もいたでしょう
亡くなったお母さんにすがりつき
おっぱいをしゃぶっている赤ちゃん
その体にしがみついて
泣くじゃくる　幼い子

息子を戦争で失い
胸にだいていた　三才の娘も
手榴弾の破片で即死をした
飢えと恐怖と傷の痛み
地獄の中を生き続けたーーと
しぼりだすような声で　語った
おばあさんの苦しみ

月桃の花は　沖縄の苦しみを
じっと見続けてきたのだろうーー

四月二十五日
私は　父や母と共に
グラウンドの　赤土の上に立った

こぶしを　大空に突き上げ
平和を叫んだ
杖をついたおじいさんがいた
腰の曲がったおばあさんもいた
車椅子に乗った人もいた
みんなが
こぶしを　高く突き上げていた
こぶしの中には
六十五年前の悲しみが
つまっていたのだろう…
その悲しみを　少しでも
こぼさないように
強く　強く
にぎられていた

私は思う
忘れてはいけない「深い悲しみ」
弱めてはいけない「平和への想い」
おじいさんやおばあさんが
生きて　生きて　生き抜いて伝えた
この想いを
私達は
受け継いでいかなければならない
「沖縄の心」が消えてしまわぬように…

私は　沖縄に生まれた子どもとして
ずっと　ずっと　叫び続けたい
”平和の心“をー